



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 「誰か...」と言われたら

旭町小学校長 土屋 信行

今年度も1ヶ月が過ぎようとしています。校内を回っていると、どのクラスも落ち着いて学習に取り組んでおり、学校全体に穏やかな雰囲気を感じられます。

さて、先日の全校朝会で、私は子どもたちの当番・係・委員会活動等、いわゆる学校における「子供たちの仕事」について以下のような話をしました。

～ 学校でのみんなの仕事は、大きく二つに分けられると思います。一つは、仕事の内容はだいたい決まっています、みんなの生活に必要な仕事。もう一つは、その仕事をする人の工夫次第でみんなの毎日が楽しくなったり、過ごしやすくなったりする仕事。どちらも、人が集団で生活する上でなくてはならないものだと思います。この二つの仕事に、責任をもって一生懸命取り組む人が多い学級、学年、学校が、みんなにとって、いい学級、いい学年、いい学校になるのです。(中略)

これ以外にも、みんなは「誰か をやって」「誰かちょっと手伝って」等々、「誰か...」と言われることがたくさんあると思います。そんな時、「誰か...」と言われたら、自分の名前を呼ばれたと思いなさい。そう思って仕事のできる人が増えていったら、旭町小は、もっともっといい学校になっていきます。また、更に高いレベルは、「誰か...」と言われなくても自分で気付いて、やった方がいいと思う仕事に進んで取り組む人です。(後略)～

この朝会の後、廊下で会ったある子から、「校長先生、『誰か』って言われたから、すぐお手伝いしたよ」と声をかけられました。また、ある担任からは「『何か仕事はありませんか』って何人も来るんですよ」という、うれしい報告もありました。これからも、このような子供たちの素直で前向きな心を大切にはぐくんでいきたいと思っています。

